

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

2020年 3月 31日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 171-0014

所在地 東京都豊島区池袋2-23-23 白鳥ハイツ102号

評価機関名 特定非営利活動法人 福祉推進機構アシスト

認証評価機関番号

機構 10 - 177

電話番号 03-6906-5231

代表者氏名 理事長 島田 久平

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	吉田 健治	経営	H1001001
	②	大井 桂子	福祉	H0304038
	③	島田 久平	福祉	H0702042
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	放課後等デイサービス			<input checked="" type="checkbox"/> 食事を対象にする
評価対象事業所名称	ふみ月チャレンジ染地		指定番号	1354200121
事業所連絡先	〒	182-0023		
	所在地	東京都調布市染地1丁目17番15号		
	TEL	042-486-9901		
事業所代表者氏名	施設長 朝香 ちよみ			
契約日	2019年 9月 26日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 10月 1日			
利用者調査結果報告日	2020年 2月 6日			
自己評価の調査票配付日	2019年 12月 5日			
自己評価結果報告日	2020年 2月 6日			
訪問調査日	2020年 2月 13日			
評価合議日	2020年 3月 14日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	ふみ月チャレンジ染地は、特定非営利活動法人ふみ月の会が設置運営する定員10人の中学生以上を対象とする放課後等デイサービス事業所である。法人は他に小学生を対象とする定員10人の放課後等デイサービス(ふみ月チャレンジたま川)を運営しており、同時に評価を実施した。今回が初めての受審であったので職員説明会では評価制度の趣旨や評価方法について丁寧に説明した。利用者調査にあたっては施設と事前に協議し、アンケート方式で実施した。訪問調査は、評価者3人で施設長に面接し、実施状況について説明を受け意見交換を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2020年 3月 31日

事業者代表者氏名 代表理事 星野 勝太

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「ノーマライゼーション」の理念の下、ごく当たり前に生き生きとした社会生活を送れることを目指し、利用者が困難な課題にも取り組んでいき、「生きる力」を育て、認められる喜びを自信に繋げる事を目的とする。 2) 様々な活動を通して、基本的な生活習慣・集中力・持続力・コミュニケーション能力の獲得や対人関係・社会性・柔軟性を高めることを目指す。 3) 利用者と真摯に向き合うことでゆるぎない信頼関係を構築しながら、各々の現状をできる限り客観的に把握し、スモールステップを踏みつつ、具体的に、確実に身につけて自立に繋げていけるようにする。 4) 一人ひとりが誇りをもって生きていけるような取り組みを心掛け、利用者が生きにくさを抱えながら生きていくのではなく、少しでも生きやすさに変えていけるよう謙虚に、柔軟に、そして高い専門性をもって一人ひとりに応じたきめ細かい療育を行うことを目指す。 5) 療育にあたっては、家庭や所属する学校との連携を重要なことと考え、一貫した方向性をもって取り組む。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性を高めること。 ・利用者との信頼関係を築きながら、家庭と学校と連携して一貫した療育を行うこと。 <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他事業所との大きな特徴ともなる当会の基本理念の下、理論と実践を日々行う中で”志(自負)”を持ちながら利用者と真摯に向き合うことのできる人材。

調査対象

登録者全員27人に対し調査を行い、19人から有効回答を得た。回答率は70.4%である。回答者は男12人、女3人、無回答4人である。

調査方法

アンケート方式により実施した。調査票は施設を通して配付して貰い、回答は評価機関が用意した返信用封筒により直接機関に郵送して頂いた。

利用者総数

27

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
27		27
19		19
70.4	0.0	70.4

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度では、「よい」16人、「ややよい」1人、合わせて17人(89.4%)の利用者が満足と答えている。一方、「どちらともいえない」1人(5.3%)、「無回答」1人(5.3%)で、「ややよくない」、「よくない」はいない。高い満足度が得られている。総合的な感想では、「毎回楽しみに通っています」、「職員は皆優しいです」、「いつも楽しく活動しています」。職員や友達と話をするのが一番楽しいです。クリスマス会などイベントを特に楽しみにしています。とても満足しています。「療育がメインのためと思いますが、楽しいと思える活動が少ないです」、「職員が増えると良いと思います」などの声が寄せられている。項目別では、「職員の接遇・態度」では9割以上が「はい」と答えている。「事業所内の清掃、整理整頓」、「病気やけがへの対応」、「子どもの気持ちを尊重した対応」では約9割の利用者が「はい」と答えている。回答者の属性では、「サービス利用者本人が回答」10.5%、「本人が家族や介護者と相談しながら」36.8%、「家族が本人の気持ちを推察して」47.4%、その他・無回答5.3%であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所での活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	15	2	0	2
「はい」78.9%、「どちらともいえない」10.5%、「無回答」10.5%で、「いいえ」はいない。自由意見では、「活動が様々で楽しいです」、「学校から事業所に行く時間が遅く、あまり活動には参加していません」などの声が寄せられた。				
2. 事業所での仲間との関わりは楽しいか	14	1	0	4
「はい」73.6%、「どちらともいえない」5.3%、「無回答」21.1%で、「いいえ」はいない。自由意見では、「みんなと仲良くできるからです」との声が寄せられた。				

3. 職員は、話し相手や、相談相手になってくれるか	16	1	0	2
「はい」84. 2%、「どちらともいえない」5. 3%、「無回答」10. 5%で、「いいえ」はいない。自由意見では、「声をかけてくれます」、「たまに話をします」などの声が寄せられた。				
4. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	17	1	0	1
「はい」89. 4%、「どちらともいえない」5. 3%、「無回答」5. 3%で、「いいえ」はいない。自由意見では、「本やおもちゃが整理されています」との声が寄せられた。				
5. 職員の接遇・態度は適切か	18	0	0	1
「はい」94. 7%、「無回答」5. 3%で、「どちらともいえない」、「いいえ」はいない。自由意見はなかった。				
6. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	17	0	0	2
「はい」89. 5%、「無回答」10. 5%で、「どちらともいえない」、「いいえ」はいない。自由意見はなかった。				
7. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	13	0	1	5
「はい」68. 4%、「いいえ」5. 3%、「無回答」26. 3%で、「どちらともいえない」はいない。自由意見はなかった。				
8. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	17	1	0	1
「はい」89. 5%、「どちらともいえない」5. 3%、「無回答」5. 3%で、「いいえ」はいない。自由意見はなかった。				
9. 子どものプライバシーは守られているか	16	1	0	2
「はい」84. 2%、「どちらともいえない」5. 3%、「無回答」10. 5%で、「いいえ」はいない。自由意見では、「個別で対応したり、プライバシーを守ってくれました」との声が寄せられた。				

10. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	14	1	1	3
「はい」73. 7%、「どちらともいえない」5. 3%、「いいえ」5. 3%、「無回答」15. 8%である。自由意見では、「本人は計画などあまり理解していませんが、本人に合わせて調整していただいていると思います」との声が寄せられた。				
11. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	14	2	1	2
「はい」73. 7%、「どちらともいえない」10. 5%、「いいえ」5. 3%、「無回答」10. 5%である。自由意見はなかった。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	15	3	0	1
「はい」78. 9%、「どちらともいえない」15. 8%、「無回答」5. 3%で、「いいえ」はいない。自由意見はなかった。				
13. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	8	3	2	6
「はい」42. 1%、「どちらともいえない」15. 8%、「いいえ」10. 5%、「無回答」31. 5%である。自由意見では、「あまり困りごとが発生していないようです」、「困ったようなケースの経験がないので、そこまでの話をしたことがないです」、「今までこのような場面がないのでわかりません」などの声が寄せられた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○ 非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○ 非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○ 非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく ○ 非該当
	カテゴリ1の講評	
	利用者の現状を客観的に把握し、一人ひとりに応じたきめ細やかな療育に取り組んでいる 1982年に保護者と指導者により創設された「ふみ月の会」は、2007年に特定非営利活動法人格を取得している。放課後等デイサービスは、2012年に小・中・高生を対象に開始し、2015年に小学生を対象にした「たま川」を設立し2事業所を運営している。ふみ月の会は、自立に向けて、「利用者の現状を客観的に把握し、スモールステップを踏みながら一人ひとりに応じたきめ細やかな療育を行う」を理念とし、基本的な生活習慣を獲得するなど4つの療育方針を定め、パンフレットやホームページで広く周知している。	
	職員は、療育の本質を理解し利用者との関わりの中で高い志をもって支援に当たっている 理念・方針に基づき、利用者や家族と真摯に向き合うことでゆるぎない信頼関係を構築しながら、障害のある子供たちの自立に向けた療育に職員全員で取り組んでいる。2事業所を統括する施設長及び各所の児童発達支援管理責任者の役割は、法人の組織図で明示しており、施設長は、毎週開催する2所合同の職員会議や反省会で、療育の本質を理解し利用者との関わりの中で高い志をもって日々の支援に当たることを全職員に伝え自ら実践している。利用者一人ひとりに合った療育を提供できるように情報を共有し、利用者・保護者から信頼を得るように努めている。	
	重要案件は、運営委員会で検討し理事会に諮り正会員で構成された総会で決定している ふみ月の会は、正会員と賛助会員があり、理事会と正会員で構成された総会が置かれている。利用時間・送迎・職員体制等施設運営に関する重要案件は、代表理事と施設長・児童発達支援管理責任者の運営委員会で検討し、理事会に諮り正会員で構成された総会で決定している。日々の支援に関わる案件は、職員会議で検討し決定している。決定事項をはじめ伝達事項は、職員には所毎のスタッフ会議(毎日の業務の振り返りなど)で伝えられ、利用者・保護者には、連絡帳や送迎時、2事業所合同の保護者会や「ふみ月の会報」で伝えている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>施設長が事務局員として参画する調布市福祉作業所等連絡会で地域情報を把握している</p> <p>利用者及び保護者の意向等は、年2回の保護者との個別面談で聞いている。また、国のガイドラインで定められた「放課後等ディサービス評価表」(環境・体制整備、適切な支援の提供、非常時の対応等)を保護者と職員(自己評価)対象のアンケートを毎年実施し、結果及び改善策は保護者会で資料を配布し説明している。福祉事業や地域福祉動向は、市からのメールによる情報提供や施設長が事務局員として参画している調布市福祉作業所等連絡会等で把握している。ふみ月の会の当面する課題は、安定した人材確保と育成、安定した運営基盤の構築となっている。</p> <p>職員確保と育成、それによる利用者の受入及び安定した運営基盤を事業方針としている</p> <p>中長期目標は、認定NPO法人の取得、運営の安定(人材確保と育成、安定した運営基盤の構築)を法人の総会で決めている。これを踏まえて作成された今年度の事業計画は、職員確保と育成とそれによる利用者の受入及び安定した運営基盤を事業方針とし、ボランティアと職場体験の積極的受入、防災対策、活動の充実などを内容としている。保護者からは、就労に向けての作業所やグループホームを望む声が出ており、生活介護や就労継続支援B型、グループホームの開所など事業を広げることを考えており、展望として長期計画に盛り込みたいと検討している。</p> <p>事業計画は、スタッフ役割分担表と活動計画、行事等年間予定表を立てて実施している</p> <p>事業計画は、各業務担当者が前年度実績をまとめて課題を抽出して計画案を検討し、運営会議で精査し理事会に諮り総会で決定している。計画推進の職員業務分担は、スタッフ役割分担表(法人・染地・たま川別)を作成しているが、分担が偏った時は職員会議で調整している。また、活動計画(日中活動や夏休みなどの長期休暇中の活動)や外出・宿泊訓練の行事日程を示した年間予定表を立てて実施している。進捗状況は、職員会議や2事業所合同開催の土曜活動日は、非常員職員も入った反省会で利用者の状況や行事等の活動状況を確認し見直している。</p>		

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している		○非該当
サブカテゴリ2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当

評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当
カテゴリ3の講評		
<p>利用者の苦情や要望等は、日々の連絡帳や年2回の個別面談で把握し対応している</p> <p>就業規則で、職員としての社会的ルール・マナー、諸規則・諸規定の遵守義務をサービスの基本原則とし、25項目の服務心得は、「倫理・行動規範」として作成し職員に周知している。苦情・相談窓口は、重要事項説明書に受付担当者及び行政機関の窓口の連絡先を明示し入所契約時に説明し、所内に掲示し周知している。苦情や要望等は、日々の利用者の送迎時や連絡ノート、年2回の個別面談で把握し対応している。また、寄せられた苦情等は、「苦情解決に関する規程」に則り迅速・適切に対応を定めているが、前年度は、取り上げるような苦情等はなかった。</p> <p>呼称は、呼び捨てはやらない、上から目線にならないように記録も含め注意している</p> <p>利用者の人格を尊重する視点に立ったサービスに努めており、虐待防止委員会を設置し虐待防止対策に取り組んでいる。虐待防止マニュアルで、虐待の分類や虐待の発見・通報、虐待を疑われる事実があった場合の対応と再発防止等を定めている。人権擁護・虐待防止に関する2事業所合同の研修会を実施している。職場では、何でも言い合える雰囲気にしており、呼称は「さん・くん」としているが、成長に応じて呼び方を本人に確認して変えており、親愛の情としての呼び捨てはやらない、上から目線にならないように記録も含め注意している。</p> <p>読み語りなどで長く携わっているボランティアは、児童の成長を見守ってくれている</p> <p>土曜活動・宿泊訓練、藍染め等の縫製、読み語りなどのボランティアと市内5校の中学生の職場体験を受け入れており、長く携わっているボランティアも多く、職員と共に児童の成長を見守ってくれている。地域との関わりでは、調布市親子祭りや社協主催の福祉祭りに参加している。今後は、地域の児童館との交流(土曜活動で健常者との関わりが持てるように出向き活動を一緒にやるなど)を考えている。また、支援学級の保護者や教員からの相談に応じたり、地域のネットワークである調布市福祉作業所等連絡会は、毎年、市長との懇談会で要望を出している。</p>		
カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇●●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当
○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当

サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>利用者の安全・安心を確保するために、事故防止や感染症対策に取り組んでいる</p> <p>日常的にヒヤリ・ハットを記録し、事故の再発と未然防止を図っており、利用者に事故やケガ、健康状態の急変が生じた場合は、速やかに保護者、主治医等に連絡をとり適切に対応できるようにしている。「感染症の対応について」を作成し、衛生管理、感染拡大防止策等を定め、インフルエンザの好発期は、手洗い・うがいと手指、遊具・教材教具の消毒を行っている。現在、非常事態となっている新型コロナウイルス対策では、外出行事を控えるなど感染防止に努めている。不審者侵入に備え玄関は施錠している。</p> <p>非常災害に備え、体制整備や地域との連携など防災対策の強化が必要となっている</p> <p>ふみ月の会は、運営規程で「具体的計画を立て、非常災害時の関係機関への通報及び連絡体制を整備し、定期的に避難、救出など必要な訓練を行う」ことを定めている。また、「緊急災害時の対応について」を作成し、屋内・屋外活動中、送迎中の場合の連絡と避難場所や震災、台風、大雪時の引き取りの連絡方法などを定めている。災害時を想定した訓練では、立川防災館での地震体験や消防訓練、引き渡し訓練を実施している。今般の台風19号で多摩川が氾濫したことから避難場所の変更や体制整備、地域との連携など防災対策の強化が必要となっている。</p> <p>個人情報の厳守に向け職員から誓約書を徴するなど適正管理に努めている</p> <p>「個人情報保護規程」と「個人情報保護に対する方針」を規程し、個人情報の適切な収集、利用、提供、安全確保など適正管理を定めている。利用者情報の関係機関への提供や写真等の使用は、利用者の同意を得ている。利用者等の情報の漏洩・提供、施設外の持出しは就業規則で服務心得として定め職員から遵守の署名を得ている。一方で、ボランティアには、「ボランティアの手引き」で説明しているが誓約は得ていない。個人情報の一層の厳守に向けて、誓約書の提出に向けた対応を期待したい。</p>		
カテゴリ5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3

評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-5の講評

退職補充には人材派遣や養成校訪問、タウンページなどで職員確保に努力している

職員の採用は、非常勤を含め法人で書類選考と面接及び実体験(2事業所で2・3回と土曜活動)を経た上で採用している。採用に当たっては、人材派遣や養成校訪問、募集広告、知人からの紹介などで職員確保に努力している。職員の配置状況は、年度途中での退職や病欠、産休・育休等から新規採用や事業所間での配置換えを行っているが、男性職員の中途退職などで職員は不十分と認識している。人事処遇面は、給料表での昇給と賞与・年度末手当は、勤務評価を取り入れているが、法人としての管理責任者、指導員等の資格要件等は未定となっている。

経験の浅い新人職員のOJTの充実強化と定着化対策に力を入れて行きたいと考えている

業務に関する知識を高め、技術の向上を図るために研修計画を作成し実施している。2事業所合同で「療育・虐待防止法・信頼関係・具体的な指導方法・車の運転」などについての内部研修を行っている。土曜日活動後の反省会では、非常勤も交えた職員間で活発に意見交換し、各々のスキルアップを図っている。一方で、外部研修は、調布市福祉作業所等連絡会が主催するグループワーク研修や交換研修に参加しているが、他の様々な研修には十分に参加できていない。療育経験の浅い新人職員のOJTの充実強化と定着化対策に力を入れて行きたいと考えている。

利用者一人ひとりの成長は、職員の喜びであり療育の意義を確信する機会となっている

利用者の自立に向けて、個々の現状を客観的に把握し、スモールステップを踏みながらの一人ひとりの成長は、職員の喜びであり療育の意義を確信する機会となっている。毎週2所合同の職員会議と非常勤職員も参加する土曜活動後の反省会は、気づきや業務改善などの意見交換の場になっている。自己啓発として、年間一人1万円を計上し個人的研修への参加や保育士等の資格取得奨励として費用を援助している。働き易くするために、会議は時間内開催とし時間外での研修や行事への参加は超勤扱いにし、親睦会としての新年会には、ボランティアも参加している。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

目標:人材の確保

背景:職員の配置状況は、2017年度は、年度途中に職員の病欠や産休・育休、年度末には常勤職員の退職もあり早急な職員確保が必要となっている。

取組:人材紹介会社への求人依頼や募集広告、ハローワーク府中と調布市社会福祉協議会共催の合同面接会に代表理事と職員が参加した。

結果:人材確保に奔走したが具体的な成果は得られなかったが知人を通じて職員1名を採用することができた。

検証・今後の方向:現在欠員となっている男性指導員、送迎の運転手及び施設長の後任を、引き続き人材紹介会社やハローワークを活用して確保に取り組み、加えて職員の知人等にも声をかけ知人の知人に当たる方を採用できたケースがあることから、様々な採用活動を精力的に取り組んでいくとしている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

福祉職人材確保の困難な状況下で、放課後等デイサービスは、児童指導員(保育所や障害児支援の経験3年以上等)または保育士を半数以上配置となっており採用を難しくしている。ふみ月の会の職員の状況は、2017年から2018年度にかけて、職員の退職が続き、新規採用と2事業所間の配置換えで凌いできている。2019年4月の染地事業所の職員構成は、常勤5人・非常勤6人で常勤職員の平均在職期間は8.9年であるが、2019年8月に常勤1名が退職し、たま川事業所から非常勤職員1名を配置している。たま川事業所では、常勤2名、非常勤4名で常勤職員の平均在職期間は6.5年となっているが2020年1月に常勤1名が退職したため週3日の非常勤採用で穴を埋めている。事業所では、男性の児童指導員と運転手の募集活動を継続している。また、2事業所を統括する施設長は、染地事業所の管理者を兼務し世代交代面からも施設長の後任を募集している。今回の利用者アンケートでは「職員が足りていないと感じる」や「職員の入れ替わりが激しい」との声も一部聞かれる。男性職員を中心に早期退職が見られることから職員の定着化対策が期待される。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

目標:会計の明瞭化(財産目録や貸借対照表、損益計算書などの財務諸表等を適正・明確にする)し安定経営を図る。

背景:理事会で、財産目録や貸借対照表が不十分(固定資産等が不明)との指摘があった。

取組:会計事務を適正・正確にするために、2018年度から会計に携わる選任の職員の採用配置と税理士に業務委託し会計ソフトを導入する。

結果:これまでは支援職員が会計の処理を担い、負担が多かったが専任の事務職員を配置と会計システムを導入し、きちんとした会計処理を日々こなすことと税理士への業務委託によって、2019年度の決算書(財産目録や貸借対照表)は、より正確なものが実現できる見通しとなった。

検証・今後の方向:2019年度中途の会計状況をより正確に把握し、年度末の決算時は、昨年度よりも安定経営に寄与することが確実となり、厳しい制度の中で、安定した事業運営を目指すことが重要と考え継続して取り組んでいくとしている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

2017年に「放課後等ディサービスの見直しの国ガイドライン」で、支援内容(タイムスケジュール)やBS(貸借対照表)、PL(損益計算書)などの財務諸表等の情報を行政に提供し、事業所のHP等で公表するとされた。また、ふみ月の会の理事会で、財産目録や貸借対照表が不十分(固定資産等が不明)との指摘を受けている。これらから会計の明瞭化を目標に掲げ、2018年度に事務職員を採用及び税理士に業務委託と会計ソフトを導入し、毎月の給与計算や収支計算を行い、2019年度の決算は、よりの確なものとなる見通しとなっている。経営面では、制度が厳しくなり減収になったことや職員の処遇とより良いサービスを提供するために、社会的信用度と透明性を高め、社会貢献している企業から寄付を受けやすくする(税の免除)ために、認定NPO法人取得に向け今年度から取り組みに着手している。また、たま川事業所の2018年度決算は赤字で、理由として利用者は小学生で①学校行事が多く土曜活動を休む②夏休みは、帰省(1ヶ月位)が多い(定員10人に4.8人となる)などであり改善が必要となっている。認定NPO法人取得と経営改善により安定経営に繋がることが期待される。

II サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1		評価点(〇〇〇〇)	
子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している			
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評			
<p>事業所の情報は、市や法人のホームページなどで広く提供している</p> <p>市のホームページには、行政と民間の子育て情報が一つとなり、子育て応援サイト「コサイト」で、市内18か所の放課後等デイサービスの情報を閲覧することができる。それぞれの事業所へリンクしているため、「ふみ月チャレンジ染地」の情報を得ることができ、法人のホームページにもアクセスが可能になっている。法人のホームページでは、ふみ月の会の療育は障害があっても、新しいことや困難なことにチャレンジし、達成することができるとその可能性を信じ、療育をする上で最も大切にしていることは「信頼関係」と掲げて支援していると発信している。</p> <p>パンフレットや福祉作業所連絡会の季刊誌等で、事業所の情報や活動の様子を伝えている</p> <p>事業所の情報は、パンフレットや60か所程が加盟している調布市福祉作業所連絡会の季刊誌・市障害福祉課が発行している「障害児・者通所一覧」にも情報提供している。パンフレットは、A4サイズの三つ折りで、ふみ月チャレンジたま川・染地の事業を案内している。事業所ではわかりやすい表記については、アクセス(地図)などが不十分と認識している。調布市福祉作業所連絡会の季刊誌では、それぞれの事業所の活動の様子を写真を多用しわかりやすく伝えている。また、ボランティアがやりがいや生きがいをもって事業所を支えている姿も紹介している。</p> <p>利用希望の問い合わせや見学の要望があった場合は、個別に随時対応をしている</p> <p>利用希望の問い合わせや見学の要望があった場合は、個別に随時対応をしている。年間に20件位の見学希望がある。見学は施設長がパンフレットなどで基本理念、療育方針、サービス内容など説明している。その上で療育する上で最も大切にしていることは信頼関係であると伝えている。事業所内を案内し、見学後は質問や相談にも可能な限り時間をかけて対応している。当事業所は「療育」を地道にコツコツと継続していることから、市外からの利用希望もあり、学校や療育の相談にのることが多く、1～2時間或いは3時間に及ぶ場合でも丁寧に対応している。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		○ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○ 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>サービスの開始にあたり契約書、重要事項説明書、事業概要などで丁寧に説明している</p> <p>通所までの流れは電話やメールでの問い合わせ後、保護者と利用者との面接をし活動内容や方針を説明している。入会申込書を提出してもらい、児童福祉通所受給者証を確認し利用契約の締結となっている。サービスの開始にあたり、利用契約書、重要事項説明書、事業概要などで丁寧に説明している。当事業所は中・高校生が対象であり、小学生を対象としているふみ月チャレンジたま川からの利用もあるが、スムーズな対応ができています。受け入れの際は、基本ルールについて説明し平日の帰宅時間は平日18時で、たま川より30分遅くなることを伝えている。</p> <p>生活記録表をはじめ様々な書類で、利用者の支援に必要な個別事情や要望を把握している</p> <p>サービスの開始時に「生活記録表」をはじめ様々な書類で保護者に記入・提出してもらい、利用者の支援に必要な個別事情や要望を把握している。生活記録表では、既往歴・持病・常備薬・かかりつけの医療機関などの情報を確認している。また、こだわりについて具体的な様子や課題として改善したいこと、好きなこと・嫌いなこと、得意なこと・苦手なことを把握している。その他、基本的な生活状況として、食事・排泄・睡眠・入浴・歯磨き・着脱の他に言語の様子や対人関係についても確認している。さらに、利用者や保護者の意向を記入してもらっている。</p> <p>利用開始後の不安を軽減するための対応や、高等部は卒業に向けての支援をしている</p> <p>利用開始後の不安を軽減するための対応をしている。4月の新学期からたま川事業所の6年生が通所する場合は、3月から通所の練習をしてスムーズに移行できるよう支援している。土曜日などの活動時に小学生と中・高校生が交流しているので、顔見知りの職員がいることから安心できる環境である。また、下校時に先生から学校での様子を聞いて、できる限り落ち着いて過ごして帰宅できるように取り組んでいる。その他、高等部は卒業に向けての支援をしている。「卒会生を囲む会」を開催し、卒会後のことをイメージして安心できるように支援をしている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	11/11
3	個別状況に応じた計画策定・記録		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		○非該当
評価項目2 子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している		○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
サブカテゴリ-3の講評			
<p>利用開始時にアセスメントをして個別支援計画を作成し、定期的な見直しをしている</p> <p>利用開始時に生活記録表でアセスメントをして個別支援計画を作成している。計画書では、主目標を基に基本的な生活習慣・対人関係・社会性や言語・コミュニケーションの支援内容を作成している。利用者・保護者の希望を聞いて計画に反映している。計画書の見直しは、半年ごとに職員間で達成の評価・確認をして作成している。保護者には、年2回の個別面談で計画書をわかりやすく説明し、利用者とは希望を一緒に考える機会を設けている。計画を緊急に変更をする状況が生じた場合は随時対応しているが、変更する仕組みについて整備していないとしている。</p> <p>利用者の支援の情報を記録しているが、日々の活動の記録が不十分であるとしている</p> <p>利用者一人ひとりの支援の情報や年2回の面談時に話合った内容を記録している。面談では、学校生活・家での様子や事業所の子どもの情報交換し、保護者からの要望も聞いている。日々の活動の様子は、「放課後等デイサービス提供記録」に記載している。当事業所は大きな目標を定め、スモールステップを踏みながら、具体的に緻密にかつ確実に身につけていけるように細やかな支援に取り組んでいる。その一方で、利用者の療育の困難さ、10校以上の学校への迎えなどで記録の時間がうまく確保できず、日々の活動の記録が不十分であると苦慮している。</p> <p>個別支援計画書のモニタリング時や、各種会議で職員間での情報共有に努めている</p> <p>利用者のアセスメントは年1回実施し、計画書のモニタリングは計画書の支援内容をそれぞれの職員が実施して情報共有している。また、スタッフ会議を開きカンファレンスノートに記録している。毎週水曜日の午前中に染地・たま川合同職員会議を開き、ミーティングノートに記録して計画の内容や個人の記録を職員間で共有している。また、申し送りや引継ぎ等の情報漏れがないようにできる限り、口頭やメモで連携をとっている。第1・3土曜活動や合同宿泊訓練終了後は、非常勤・ボランティアを含めて振り返りをして情報を共有している。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	6/6
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		○ 非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>利用者に関する情報を外部とやり取りする場合の使用同意を書面で確認している</p> <p>法人は個人情報保護規程や個人情報保護に対する基本方針を掲げている。基本方針の中で、個人情報の適切な収集、利用、提供の実施の項目で、個人情報の収集、利用、提供にあたっては、本人の同意を得るとしている。サービスの提供において、事業所内の職員・学校等関係者とサービス提供に必要な事柄について情報交換することがあると、サービスの開始時に説明し、「個人情報使用同意書」で同意を得ている。また、活動する姿を写した肖像を事業所内に展示することや、事業所を紹介するポスター・パンフレットに使用する事の同意の有無を確認している。</p> <p>日常の支援の中で、プライバシーの保護や利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている</p> <p>日常の支援の中で、プライバシーの保護や利用者の羞恥心に十分に配慮した支援を行っている。特に、保護者の面談で養育などに悩んでいる場合がある。その中で、事例を挙げて、例えばと、今まで良い方向にいった例を話す場合があるが、利用者のプライバシーには十分に留意している。利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている。利用者に対しての着替えやお尻の拭き方などの排泄支援は同性支援に努めている。特に、女子の生理の処理の仕方などデリケートな問題でもあるので、女性職員が対応するなど利用者の羞恥心に十分に配慮している。</p> <p>「ノー」と言える機会を作ることを目標に他害、自傷、パニックなどにも対応している</p> <p>事業所では療育の柱の一つとして、「一人ひとりに応じてコミュニケーションの力を身につける」としている。言葉で表現できない利用者がいるので、日々の活動の中で「ノー」と言える機会を作ることを目標に取り組んでいる。また、保護者の価値観と利用者の特性とずれている場合は、年2回の面談や連絡帳等を通して時間をかけて乖離を埋めながら、その上で相互理解しながら支援して行きたいと考えている。事業所内の子ども間の暴力・いじめに関しては、子どもの障がい理解の問題もあるが、日々の活動では利用者の状況も加味して職員体制を整えている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○○●)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている		○非該当
○あり ●なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p>業務の標準化を図るために手引書やマニュアルを整備しているが、日常の活用が望まれる</p> <p>事業所業務の標準化を図るために手引書やマニュアルを整備している。利用手続きマニュアル、サービス提供に関する支援マニュアル、個別支援計画作成手順を作成している。また、苦情解決に関するマニュアル、虐待防止対応マニュアル、緊急対応マニュアル、感染症マニュアルなど一覧表にまとめている。業務でわからないことが起きた際には職員会議で討議しているが、マニュアルや手引を日常的には活用していない状況がある。職員自己評価でも「手引書等の明確化、点検・見直しや職員間での共有化が充分でない」とあり、充実化が必要と考えている。</p> <p>療育の本質は「信頼関係」と「隣人」として寄り添う事とし保護者のニーズに応えている</p> <p>事業所は利用者一人ひとりの「自立」に向け、利用者の現状を客観的に把握し、スモールステップを踏みながら個々に応じてきめ細かな療育を行うことを基本理念としている。療育の本質は「信頼関係」と「隣人」として寄り添うこととしている。そのために画一的な療育ではなく一人ひとりの発達に応じた療育を目指している。個別化した療育をマニュアル化するのは大変難しいと考えている。療育を重要視した個別支援計画は職員全員が作成段階から関わり情報共有し統一した支援をしている。療育を重要視した事業所を希望する保護者が多くニーズに応えている。</p> <p>より良いサービスを目指し理念や方針に基づいて利用者との信頼関係の構築に努めている</p> <p>事業所は、放課後等デイサービス事業としては、他事業所との相違や特徴があり、個別化を重要とし、開設以来一人ひとりに応じた目標を定めて療育に取り組んでいる。その中で、送迎後に実施していた合同職員会議を午前中の水曜日に変更し業務改善している。より良いサービスを目指して合同職員会議やスタッフ会議で職員間の討議に多くのエネルギーを注いで、事業所の理念や方針に基づいて利用者との信頼関係の構築に努めている。また、虐待の研修に参加し、日頃の支援が不適切な対応にならないか振り返る機会とし、職員間で共有し人権意識を高めている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	26/26
1	評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている	評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている	○ 非該当
評価項目1の講評			
<p>利用者一人ひとりの課題について、職員間で共有・意見交換をして支援を行っている</p> <p>アセスメントを通じて、総合的な主目標、基本的な生活習慣の課題・対人関係・言語・コミュニケーション・社会性などの具体的内容を記載し、児童発達支援管理責任者が放課後等デイサービス計画書の原案を作成している。計画書の主目標は大まかにし、スモールステップを踏みながら支援するようになっている。利用者・保護者と面談し、本人・保護者の希望を聞き取り、内容についても話し合い、支援計画に基づいた支援を開始している。利用者一人ひとりの課題について職員間で共有・意見交換をし、信頼関係の構築に取り組みながら支援を行っている。</p> <p>療育の中で、言語・コミュニケーション能力の獲得が大事な要素となっている</p> <p>利用者は、心身の変化が大きい中・高校生が対象で、コミュニケーション面で特に配慮が必要である。療育の中で、言語・コミュニケーション能力の獲得が大事な要素となっている。言葉で表現できず言語化が難しい場合がある。そのような場合でも、利用者との信頼関係を構築することで、言葉が通じて通じなくても目と目で話していると、「麦茶をください」と言葉を発信できる場合もあり、長い療育の経験から導き出している。また、文字カードや写真カードなどで、利用者の特性に応じてコミュニケーションのとり方を工夫している。</p> <p>利用者に必要な支援を行う上で、重要である関係機関との連携に努めている</p> <p>放課後等デイサービスは、利用者に必要な支援を行う上で関係機関との連携が必要である。学校や医療機関、当事業所以外の放課後等デイサービスと併用している場合があるので連携は欠かせない。特に学校との関わりは重要である。学校生活の様子や下校時での先生からの報告も加味しながら、事業所で落ち着いて充実した活動をして、安定した気持ちで帰宅できるように取り組んでいる。また、障害児相談支援事業所などのケース会議に参加している。送迎時に学校によっては駐車場がかち合うので、代表を務めるネットワークを活用し学校側と交渉している。</p>			

2 評価項目2

【食事の支援がある事業所のみ】子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている	○ 非該当

評価項目2の講評

基本的な生活習慣を獲得するために、食事など自立に向けた支援を楽しく行っている

基本的な生活習慣を獲得するために着脱・排泄・食事・睡眠などの自立に向けた支援を行っている。平日はおやつを食べているが、食事の支援は学校が休みの時に実施している。夏休みには仕出し弁当や調理をしてみんなで食べている。冷やし中華・炊き込みご飯・蕎麦・夏野菜カレーなどを作っている。また、宿泊訓練では外食を楽しみ、おやつ作りでは、ホットケーキ・たこ焼き・りんごジャム・おしるこなどを作り、食事に関心が持てるようにしている。一方で、食事に対して個々の課題や目標があり、楽しいひと時にならない場合は励ましながら取り組んでいる。

利用者の状態やペースに合った食事になるように、現状に見合ったアプローチをしている

利用者の状態やペースに合った食事になるように一人ひとりの現状に見合ったアプローチをしている。利用者が安全に食事ができるように固い物を避けたり、おかずを小さく切る等の配慮をし、食べ物や水分の飲み込みに注意して対応している。また、食物アレルギーの利用者は、現在、数少ないが、保護者からアレルギーの有無の情報をもらい、昼食やおやつ時に充分に配慮している。また、箸を使って食事することは一生無理と思っていたが、「根気よく接してもらい箸を使えるようになり、外食も楽しく人生が豊かになった」と、保護者が会報で述べている。

偏食の課題は療育の積み重ねの成果によりかなり改善され保護者にはアドバイスしている

偏食の課題は療育の積み重ねの成果によりかなり改善されている。一方で、利用者・保護者によっては家庭での課題もあり保護者にアドバイスをしている。偏食がある場合は無理には進めないで「食べてみたら」と声かけしている。こだわりから食品の色で苦手で決めつけている場合等があり、利用者との信頼関係を築くことによって、少しずつ食べられるようになってきている。保護者から「苦手は減らして欲しい」との要望がある。ほめることの療育の積み重ねで、皿が綺麗になる達成感を味う支援をし、学校や家庭では食べなかったのが食べられるようになってきている。

3 評価項目3 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 身の回りのことは自分で行えるよう、必要な支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している	○非該当
●あり ○なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている	○非該当

評価項目3の講評

一人ひとりの自立に向けて基本的な生活習慣が自分で行えるように適切な支援を行っている

利用者の状態や身体機能は「生活記録表」で把握している。基本的な生活習慣の獲得は療育の基本として取り組んでいる。一人ひとりの自立に向けて着脱・排泄・食事・睡眠などの基本的な生活習慣が自分で行えるように適切な支援を行っている。例えば、個別支援計画書で主目標を基本的な生活習慣の獲得としている。その上で、支援内容を着脱・排泄をきちんと身につける、はしを使っておいしく食べるなどとしている。利用者一人ひとりの状態により達成度は異なるが、長期的な目標に向けて取り組み、日々は細やかなスモールステップで獲得に向けている。

社会性を身に付けながら様々な活動を行い、社会生活上のルールを学ぶ支援をしている

社会性を身に付けながら様々な活動を行い、挨拶・マナー・交通ルールなど社会生活上のルールを学ぶ支援をしている。屋外ではできる限り公共交通機関を活用し、多様な経験をして経験の幅を広げ社会性を身に付けている。また、利用者の心身の発達や社会性が育つよう、利用者の人数や状況によって大小の集団を設定し、様々なプログラムに取り組んでいる。利用者の有する能力を活かすことのみでなく、信頼関係ができていく職員の励ましやアプローチで新しいこと、苦手な事などにも挑戦し、成し遂げられた時は、利用者にとって大きな自信となっている。

4 評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当

評価項目4の講評

日々の健康管理は、学校での様子を聞いたり、家庭での様子を確認して行っている

利用者の健康の情報は、「生活記録表」で保護者から記入してもらい把握している。利用者の平熱やアレルギー・てんかん・持病の有無、今までかかった病気、かかりつけの医療機関などの情報を得ている。また、服薬や、てんかん発作の対応についての情報も把握している。日々の健康管理は、学校への迎え時に先生から学校での様子を聞いたり、保護者からの連絡帳での家庭での様子からいつもと違うことはないか観察している。活動の中でも体調変化や発作などに充分に配慮し、利用者が楽しかった気持ちで帰宅できるように取り組んでいる。

利用者の状態に応じた健康管理をし、「感染症の対応について」の取り決めをしている

利用者の状態に応じた健康管理をしている。薬の影響で肥満気味の人や偏食がある人、睡眠不足でイライラする人など課題を持った利用者があるので、なるべく体を動かす活動を取り入れている。日々の活動にマラソン・ウォーキング、室内運動(集団・個別)を取り入れたりと、食事・おやつ調整を行っている。感染症流行時期は手洗いやうがいの励行、手指消毒、遊具や教材の消毒をして感染症予防を徹底している。また、「感染症の対応について」の取り決めをしている。その中で、感染症拡大防止策を定め、学級閉鎖があった場合の対応についても定めている。

身体を動かす機会になるように活動に運動を取り入れ、体調変化時の備えも行っている

保護者がリフレッシュの時間を確保できることも利用者の健康維持する上で重要である。放課後や長期休みに肥満傾向にある利用者にも身体を動かす機会になるように活動に運動を取り入れている。また、送迎時はドアツードアにならないように自宅近辺にバス停を定めて歩くなど、健康管理に努めている。その他、サービスの開始にあたり、重要事項説明書で、利用者にも容態急変があった場合の対応を定め説明している。協力医療機関または利用者の指定する医療機関に連絡するなど必要な処置をすると同時に利用者の家族に速やかに連絡するとしている。

5 評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの状況に応じて利用日や利用時間を設定している	○ 非該当

評価項目5の講評

利用者の主体性をもった活動を年間を通して、多様なプログラムを計画し実践している

利用者の主体性をもった活動を年間を通して多様なプログラムを計画し実践している。また、様々な活動を通して、基本的な生活・集中力・持続力・コミュニケーション能力の獲得や対人関係・社会性・柔軟性を目指して取り組んでいる。平日は、プール・おやつ作り・制作・レクリエーション・音楽鑑賞など様々な活動を通して、初めてのことや苦手なことに挑戦するなどいろいろな経験をしている。また、毎年ボランティアの協力を得ながら行う、多摩障害者スポーツセンターや蓼科高原での合同宿泊訓練は利用者の大きな楽しみであり、成長する機会となっている。

活動する室内の環境を工夫し、利用日や利用時間の希望を取り入れて支援している

当事業所は緑に囲まれた2階建ての民家で、木の温もりを感じられる住環境である。全てバリアフリーではないが、1・2階には広い活動室があり活動に応じてパーテーションを使ったり、相談室を活用するなど室内の環境を工夫している。療育の観点から和式のトイレを設備として取り入れ、外出時に柔軟に対応できるようにしている。また、利用日や利用時間は、利用者や保護者のリフレッシュの時間の希望を取り入れて確保するように対応している。療育に力を入れている事業所への希望が多い。

利用者の状況や希望・意見を取り入れた活動のプログラムで行っている

長期休暇や土曜日の活動日、宿泊訓練などで比較的時間の余裕がある時に、利用者の状況や希望・意見を取り入れたプログラム活動を行っている。土曜日の活動は地域バザーへの参加やハイキング、テーブルマナー学習、そばづくり、クリスマス会などで基本生活習慣の獲得や公共交通機関を使用することでのマナーの獲得など目標を掲げて取り組んでいる。長期の休みの活動はハイキングや調理実習、創作活動、夏休みには宿泊訓練を2回実施している。施設長は、療育の観点から利用者によっては、主体性の尊重と言えない面もあると考えている。

6 評価項目6 家族との交流・連携を図り支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している	○ 非該当

評価項目6の講評

連絡帳のやりとり、保護者会や個人面談に情報交換をし、支援に活かしている

事業所は利用者や保護者との信頼関係の構築を基本として、家庭や学校と連携を図りながら療育に努めている。利用者の事業所の様子や家庭での普段の様子は連絡帳のやりとり、保護者会や年2回の個人面談の際に情報交換をし、タイムリーに支援に活かしている。利用日の家庭での様子は、連絡帳で知らせてもらっている。事業所からは、送迎の有無、昼食・おやつ摂取状況、サービスの提供内容や利用日の様子を伝えている。今年度から保護者会を年2回実施する予定で、3月には次年度の活動予定や法律的な内容の説明をする予定になっている。

自己評価表でアンケート調査をして、保護者との信頼関係に力をいれている

今年度も放課後等デイサービス自己評価表で保護者にアンケート調査をしてサービス向上に努めている。アンケート調査の結果については職員間で改善に向けて話し合いをしている。また、アンケート結果および改善策は保護者会で資料を配布し、説明し、今年度はホームページにも公表し、透明性を高めている。その中で、満足度について、「通所を楽しみにしているか」に対しては、「子どもの寄り心になっている」との意見等があり、事業所は、「一緒に考え、寄り添いながら共に励んでいきたい」と保護者との信頼関係に力をいれている。

相談やアドバイスは連絡帳・メールなどでできる限りの対応・支援を行っている

契約書でサービス内容として、保護者に対する相談援助を明示し、家庭の状況に配慮しつつも対応している。相談やアドバイスは連絡帳・メールなどでできる限りの対応・支援を行っている。また、年2回の個別支援計画時に面談して相談に対応している。事業所は成長と一緒に見守る姿勢を示している。一方で、保護者によってはアドバイスが厳しいと受け止められているのではないかと事業所では苦慮している。その上で、できる限り保護者の受け止め方に、配慮することが重要であると考えている。

7	<p>評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している
●あり ○なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている
評価項目7の講評	
<p>地域の情報を得て活動に反映するなど、様々な地域資源を有効に活用している</p> <p>地域の情報は市広報、社協からの案内、調布市福祉作業所等連絡会などから得て活動に活かしている。市内福祉作業所の地域交流会からの招待、市親子まつり、市社協主催の福祉まつり、わくわくひろばまつり等地域のイベントに参加している。また、ケーキ、おやつ作り、昼食作りの買い物は地域のスーパーで購入したり、近くの農園にいちご狩りに行く等地域資源を利用している。その他、市総合体育館のプールを第2・4・5月曜日、第1・3月曜日は室内運動とダンスを行っている。利用者の状態に応じてロッカーの活用、着脱などの練習をしている。</p> <p>地域の住民に共感してもらうように努め、地域の一員として生活することを目指している</p> <p>当事業所は設立より38年目を迎えている。利用者の困難な課題や目標にも前向きな姿勢で挑戦している。そのことが自信にも繋げられ、生きる力を育んでいる。事業所は一人ひとりが誇りを持って生きていけるよう、専門性を高め家庭や学校とも連携して一貫した療育を目指している。事業所の取り組む姿勢が地域の住民に共感してもらうような療育を行っている。利用者が地域の一員として事業所に通所し、事業所は調布市福祉作業所等連絡会に加入して事務局の役割を果たしている。</p> <p>ボランティアが日々の活動を側面から支え、利用者が職員以外と交流する機会でもある</p> <p>ボランティアが日々の活動を側面から支え、利用者が職員以外と交流する機会ともなっている。土曜日活動、宿泊訓練などへの参加、藍染め製品などの縫製、本の読み語りや紙芝居などでの活動は利用者に活力や潤いをもたらしている。また、年数回市内の中学生の職場体験を受け入れての健常児との触れ合いは互いを理解する良い機会となっている。事業所では、今後も職場体験の受け入れを継続して受け入れていきたいとしている。その他、福祉作業所の地域交流会に参加しているが、健常児との交流の機会があまりないので、今後計画して行きたいと考えている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-5	子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている
タイトル①	宿泊訓練は、自然の中で課題に一生懸命に取り組むことで充実感や達成感を味わっている	
内容①	夏休みには宿泊訓練を2回実施している。1回目は多摩障害者スポーツセンターを利用し、2回目は小・中・高生を対象に2事業所合同の宿泊訓練を蓼科高原のペンション等に泊まり、日常生活と異なる環境で過ごしている。2回の宿泊訓練は、利用者一人ひとりに目標を定め排泄・食事・着脱・入浴・睡眠の基本的な生活習慣や対人関係、言語・ジェスチャーで要求を表出するなどの課題に向けて取り組んでいる。ボランティアの参加もあり、自然の中で課題に一生懸命に取り組むことで充実感や達成感を味わっている。楽しかったことを皆で共有し成長を重ねている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	子ども一人ひとりの状況に応じて生活上で必要な支援を行っている
タイトル②	スモールステップを踏みながら、「生きる力」の獲得を目指して支援している	
内容②	当事業所は設立より38年目を迎えている。利用者が困難な課題や目標にも前向きな姿勢で挑戦し、モチベーションを高めている。自信をもって生きる力を育むことで、一人ひとりが誇りを持って生きやすくなるように支援している。独自の個別指導事業は他の放課後デイサービスにはない当事業所の「療育」の特色を地域の中で打ち出している。療育に対する保護者の意識が強くなってきており、時には1名の利用者に対し2名の指導員が関わり、スモールステップを踏みながら、「生きる力」の獲得を目指して支援している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	家族との交流・連携を図り支援を行っている
タイトル③	利用者全員の送迎を行っており、利用希望者には地域を限定しないで受け入れている	
内容③	療育（発達支援）を重視しているふみ月の会は、利用希望者には地域を限定しないで受け入れており、隣接する府中市や三鷹市からの利用者もいる。利用者の送迎は、10人と8人乗りの2台の車両で、利用者が通学している特別支援学校等の駐車場に迎えに行き、帰りの送り場所は自宅近くまでとし、そこから各々が歩いて帰る（訓練）ようにしている。送迎は、運転手と支援職員が行っているが、事前に経路を走行し適性（利用者は繊細）と安全運転をチェックしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自立に向けた療育をしっかりとやって欲しいとの保護者の期待に応えるために、一人ひとりに応じたきめ細やかな支援を行っている
	内容	ふみ月の会は、療育をしっかりとやって欲しいとの保護者の期待に応えるため、開設時から個々の発達の状態や障害特性に応じて、今の困りごとの解決と、将来の自立と社会参加を目指した療育（発達支援）を重視している。活動に入る前に利用者の現状（基本的な生活習慣、対人関係、言語・コミュニケーション、社会性等）を客観的に把握し、スモールステップを踏みながら一人ひとりに応じてきめ細やかに支援し、長い時間をかけて利用者との信頼関係につづけている。保護者からは、「療育・活動内容に満足している」など感謝の声が上がっている。
2	タイトル	ごく当たり前にいきいきとした社会生活を送れることを目指し、利用者が地域の一員として地域のイベントに参加や社会資源を活用している
	内容	ノーマライゼーションの理念の下、ごく当たり前にいきいきとした社会生活を送れることを目指している。昨今、放課後等デイサービス事業所が増えているが、「療育」が重要と考え力を注いでいる当事業所を選択し、地域の一員として通所している。当事業所の施設長は、調布市福祉作業所等連絡会を立ち上げた一人で、長年に亘って事務局の役割を担っている。一方、地域の中で「卒会生を囲む会」を開催して交流している。また、親子まつりや福祉まつり等地域のイベントに参加し、近くの農園にいちご狩り、市総合体育館のプールなど社会資源を活用している。
3	タイトル	事業所は、様々な活動を通して、基本的な生活習慣・コミュニケーション能力の獲得や対人関係・社会性・柔軟性を高めることを目指している
	内容	事業所は、様々な活動を通し、「基本的な生活習慣・集中力・持続力・コミュニケーション能力の獲得や対人関係・社会性・柔軟性を高めることを目指す」と掲げている。放課後の活動はボール・音楽活動・ゲーム・おやつ作りなどしている。基本的な生活習慣の獲得も目指している。訪問時には挨拶したり、お茶を入れたりする姿が見られた。第1・3土曜日は味覚狩り・クリスマス会・テーブルマナー学習等を体験している。長期休暇の活動は自由プログラムや公共交通機関を使った外出、調理などを行っている。夏休みは宿泊訓練など多様な経験を積み成長している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	男性児童指導員の早期退職が見られることもあるので、さらに職員の定着化に向けた対応が期待される
	内容	ふみ月の会では、年度途中での退職や病欠、産休・育休等から職員が不十分と認識し、染地・たま川の2事業所間での配置換えや相互応援で凌いでいる。人材派遣や養成校訪問、募集広告、知人からの紹介などで職員確保に努めているが、現在は、男性児童指導員と運転手の確保が急がれている。利用者アンケートでは、「職員が足りていないと感じる」や「職員の入れ替わりが激しい」との声も出ており、男性児童指導員の早期退職が見られる。さらに職員の定着化に向けた対応を期待したい。
2	タイトル	パソコン活用による事務の効率化の推進と個人情報の漏洩防止の観点から情報管理の適正化に期待したい
	内容	個人情報の適切な収集、利用、提供、安全確保及び利用者等の情報の漏洩、施設外の持出しを禁止している。複数のパソコンはLANで繋げ、個別支援計画書や各種様式、マニュアル・手引き書、規定類等の作成などはパスワードを設定し活用しているが、会議録や日々の支援記録は手書きになっている。人事・給与等の機密情報の取り扱い、施設長と事務職専用のパソコンで対応している。今後は、文書の保存年限の設定や、更なるパソコンの活用による事務の効率化と漏洩防止の観点から情報管理の適正化に期待したい。
3	タイトル	事業所は制度が厳しくなる現状もあるが、事業所の役割や方向性を模索しているため、今後、保護者の希望にさらに対応される対応が望まれる
	内容	画一的な支援ではなく、一人ひとりの発達に応じた療育を目指している。療育を重視した個別支援計画は職員全員が作成段階から関わり、情報共有し統一した支援をしている。療育に力を入れている当事業所を選ぶ保護者のニーズに応えている。また、当事業所は中・高校生が対象であり、特に高校卒業後の就労に向けて療育の更なる必要性が重要としている。多くの保護者から就労に向けた作業所やグループホームの開所を望む声がある。制度運用が厳しさを増している折、事業所の役割や方向性を模索している。地域ニーズにさらに対応される対応を期待したい。